

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

作業療法の中でも身体障害領域の科目を担当しています。専門教育科目は領域ごとに分化されている様相が強いのですが、作業療法の基礎とも言える評価学や日常生活活動関連の科目も担当していることから、作業療法の目的を「生活」「生活する」というキーワードとして念頭におき、教科目の到達目標のひとつに科目間のつながりの意味に気づき理解できるということをあげています。

専門教育科目では作業療法の流れと治療原理を中心に講義し、演習では、既に学んだ内容に具体的な疾患に対する治療技術を対応させるという科目の連続性を意識して組み立てています。

具体的な工夫としては、

- ・理解を深めるため出来るだけVTRを用意する。
- ・評価の演習では、進度に合わせ実技テストを実施し、学生の習熟度を確認。
- ・小グループでの発表・レポートを課す。研究発表時に調べる過程を重視し、小グループとの個別の関わりの時間を確保しながら、学生の自主的、積極的参加を促す。

等を試みていますが、学生さんの反応をみながらまだまだ試行錯誤しています。

● 学生への要望・アドバイス等

様々な手段を持って介入できるのが作業療法士の専門性であり、楽しさであると考えています。大学で学ぶ事柄がバラバラの知識のままでなく、科目間の繋がりや関連性が実感できたときに作業療法の楽しさや奥深さに気づく瞬間なのではないでしょうか。その瞬間を共有できることが楽しみです。でも基礎・根拠のないところに応用・発展はありません。まずは、地道な学習・・・その内容を学ぶことの意味を考えながらお互いに豊かな発想力を発揮できたらと思います。